

香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第61号

2018.12



学園運動会



合同学校保健安全委員会

目次

- ・今、学園では
 - 幼稚園 p 2
 - 小学校 p 3
 - 中学校 p 4・5
 - 特別支援学校 p 6
 - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園8～12月のあゆみ p 10

秋に親しみ、季節を楽しむ子どもたち

秋は四季の中でも様々なことを感じさせてくれる季節です。子どもたちは秋のおとずれから、深まりゆく秋までを満喫しました。秋の遊びや行事等を通しての子どもたちの様子を紹介します。

音楽会



10月22日、坂出市教育文化祭音楽会（4年ぶりの出場）に、赤組と青組が出場しました。初めての大舞台に立ち、「この木なんの木」と「山びこごっこ」の2曲をお家の人やたくさんのお客さんに見守られながら、元気いっぱい歌いました。当日だけではなく、音楽会への気持ちが高まっていく過程で、歌うって楽しいな！という気持ちが子どもたちから湧き上がってくることを大切に活動を重ねてきました。



友達と一緒に歌う安心感、歌うたびに自信がついていく嬉しさ、歌声に自分をのせて表現できる気持ちよさ等、様々な心地よさを味わいながら、日々歌声がまとまっていきました。

本番前日、リハーサルの様子を見に来てくれた年少組の黄組さんから、憧れの眼差しと共に、拍手と「上手だったよ！」と太鼓判をおしてもらい、「がんばってくるね！」と音楽会への自信をよりいっそう高めることができました。

秋に親しんで



<3歳児>「お買い物に行ってきたーす」と外に出かけると、色づいた落ち葉や小枝や木の実を園庭から取ってきては、それらをいろいろな食材に見立てて料理をします。「今日は〇〇君のお誕生日」とパーティーをイメージしてケーキやジュース、お肉にサラダと様々な料理が机の上に並びます。机いっぱいに秋色の料理が並ぶと、最後はろうそくに見立てた小枝に火をつけて（つもりになって）おめでとうの歌の終わりに一気に吹き消し、パーティーの雰囲気が高まっていきます。「お肉おいしいな」「ジュースもどうぞ」と友達同士のやりとりがたくさん生まれ、ほのぼのとした楽しい雰囲気の中で遊びが繰り広げられています。

<4歳児>「コンコンチキチ〜♪」秋祭りの頃になると、幼稚園の中からも祭り囃子が聞こえてきました。5歳児の姿を真似て作ったカラフルな獅子が何頭も舞い、三輪車や台車、コンテナを組み合わせた太鼓台が「ソーリヤ、ソーリヤ」という威勢のいい掛け声と共に幼稚園中を練り歩きます。「(獅子さん)わたしの手も噛んで〜」「ぼくも、太鼓台に乗りたい！」と、友達がたくさん集まって来て、遊びの輪と楽しい気持ちが広がっていきます。



獅子が来たよ！

太鼓台だ！
ソーリヤ！
ソーリヤ！



<5歳児>気持ちのよい秋空の下、園庭では年長児ならではの木工遊びが始まり、トントンカンカンと軽快な音が響き渡ります。新しい道具（金槌や釘抜き等）を嬉しく感じながら、とにかく釘を打つことに真剣に向き合っています。釘を支え、力を調整しながら金槌で打つことは大変なこと。しかし、難しいことにも、どのようにしたら打てるのかと試行錯誤したり友達に相談したりしながら協力している姿はまさに年長児ならではの姿です。いろいろな形の木片や新しい道具に親しみながら、柔軟に発想を生かし、生き物や未来の家、ハムスターの遊園地等を作りました。

子どもどうしがつながり、家庭ともつながる学校をめざして

本年度より教科となった「特別な教科 道徳」の授業の様子や学びを道徳だよりにして発信しています。子どもたちは、自分の経験と資料を重ね、友達と協同しながら道徳的価値の理解を深めています。授業中に迷いを実感したり、多様な価値を比較したりしながら、主体的に道徳の学習に取り組んでいます。

また、今年度から一家庭一枚オレンジベストを配布しまして、「幸せを呼ぶオレンジベスト活動」に取り組んでいます。毎朝の交通立哨、JRのパトロールをはじめ、運動会・研究会等の警備、授業参観等を利用した見守り活動等に活用して、学校と家庭が一体となって子どもたちの安全を守っています。

今、学校では…

◆家庭と学校をつなぐ「道徳だより」◆



【道徳だより】

「特別の教科 道徳（道徳科）」がスタートしました。そこで、道徳だより「どうとくのひろば」を発信し、道徳科の授業について家庭にお知らせしています。道徳だよりには、各学年の授業の様子や子どもたちの感想を掲載するとともに、道徳だよりの返信欄を通して保護者の皆様からご質問・ご意見をいただけるようにしています。

道徳科の授業では、先生や友達との対話を大切にしています。それは、自分一人で考えるよりも、対話を通して様々な考え方に出会い、自分の価値観を広げていくことができるからです。例えば、「困っている人がいれば助けるのが親切」だと考えていた子どもたちが、対話を通して「時には手を貸さずに見守ることも親切」だと、新たな親切のあり方に気付いていきます。

このような子どもたちの成長を、家庭と学校が一体となって認め励ますことで、子どもたちの心はさらに成長することができます。道徳だよりが家庭と学校をつなぎ、子どもたちの道徳性をみんなで育てていければと願っています。



【対話を大切にした道徳科の授業】

◆「幸せを呼ぶオレンジベスト活動」で安心・安全な学校に◆

毎日子どもたちは、自分の力で元気よく、そして安全に登下校ができています。これは、毎朝、交通量が多い道路や見通しが悪い交差点で、暑さ寒さも関係なく、子どもたちの安全を見守ってくださっている「幸せを呼ぶオレンジベスト隊」の皆さんがいてくださるからです。

「今日も元気に来たか？」と声をかけてくださる方や「左右を自分で見て渡れているね」と、子どもたちの登下校の仕方でよかったことを伝えたり、時には転んでけがをした子どもを学校まで連れてきたりしてくださることで、子どもたちが無事に登下校できています。また、学校の周りでオレンジベスト隊の方がたくさんいてくださることで、「何があっても大丈夫、オレンジベスト隊の方が助けてくれる」と思って登下校ができています。本当にありがとうございます。

そして、これからもよろしくお願ひします。オレンジベスト隊のみなさんが子どもたちの安全と幸せを届けてくれています。



【自力登校】



【安全・安心のプレゼント】

第8回 あじさいフェスティバル(文化祭)が開催されました!

去る11月3日(土)に、**あたらしい(あいのある)じゅうときりつのさわやかないばしょ**フェスティバル、附属坂出中学校の文化祭が行われました。午前中には**総合学習CANの発表会**や**英語弁論**など**代表者による発表**、午後からは**文化部の発表**や各学年団の**合唱**が行われました。

【 最優秀研究 青雲賞 】

「石けんの研究 3」

3年：高橋さん 2年：石井さん 1年：牧野さん

昨年度まで探究してきた「手のあれない石けん」から視点を変えて、「環境にやさしい石けん」をめざして石けんづくりに取り組みました。その結果、市販のものよりも環境によい石けんを作ることになりました。理想の石けんに近づくため、何度も何度も実験と改良を行い検証するなど探究のすばらしさが高く評価され、青雲賞に選ばれました。「泡立ちが悪いなど課題はまだありますが、1年目に作った石けん比べると考えられないほど満足できる石けんになりました。」(高橋さん)



【 優秀研究 CAN賞 】

「clean発電研究所 ～効率の良い複合型発電とは～」 3年：藤田さん 2年：藤田さん 1年：鈴木さん
 「使いやすいシャープペンシルとは？」 3年：呑田さん 2年：北岡さん 1年：高木さん

【 部門賞 】

課題設定力賞 「気持ちの良い朝をむかえるためには寝る前にどのような体のいやし方をしたら良いのか？」

3年：平田さん 2年：宮武さん 1年：住谷さん

課題追究力賞 「ジャイロリングが最もよく飛ぶようにするには、どんな工夫をすればいいのか？」

3年：竹田さん 2年：松岡さん 1年：大林さん

表現力賞 「聞くだけでリラックスできる曲の共通点とは？～共通点を見つけて作曲しよう～」

3年：谷本さん 2年：奥村さん 1年：田中さん

チームマネジメント賞 「中学生でもストップモーション・アニメーション(コマ撮り)を使って、香川のPR動画はつくれるのか？」

3年：齋藤さん 2年：小比賀さん 1年：藤原さん

イグ・青雲賞 「3階から卵を救出し隊」

3年：若山さん 2年：中下さん 1年：木村さん

校長特別賞 「プラスチックの弁当箱でも保温ができるグッズは作れるのか？」

3年：西村さん 2年：古家さん 1年：伊関さん

※他にも21クラスターの研究に研究奨励賞が贈られました。



文化部発表



吹奏楽部



茶道部



1年団
「Tomorrow」



2年団
「CHANGING」



3年団
「花になれ」

CAN2018では・・・

高校生からの新しい視点で探究に深まりと刺激を！

本年度は、坂出高等学校「教育創造コース」の生徒が総合学習CANの授業に参加しました。「仮説は何か」、「どのように検証するのか」など高校生から質問を受けることで、中学生は自分たちの探究について見つめ直し、より深い探究に変えていくことができました。また、体育館で行われたプレ発表会でも、高校生の視点から中学生の発表に対して質問や評価を行い、『ベスト・オブ・坂高賞』が表彰されました。この高校生を交えた交流が、お互いの今後の学びを深めるきっかけにつながったと考えています。



【探究について高校生から質問を受ける様子】



【プレ発表会で中学生の発表を審査する高校生】



校内研究授業を公開しています！



本校は、「ものがたり」の授業を行うことで、生徒が深い学びとともに学んだことの意味や価値を実感できる授業をめざし実践しています。6月に行われた研究大会の振り返りから、これまでの研究の方向性を継承しつつ、「生徒の題材に対するドミナント（学習前の題材に対する考え）の把握と、その変容を明確化すること」、「生徒の自己形成につながるよう、自己に引きつけた語りを生み出すための手立て」という視点を加えて「ものがたり」の授業の実践に取り組んでいます。11月からは公開授業研究会も行っています。詳しい日程などは本校のホームページをご覧ください。

(本校HPアドレス <http://www.sch.ed.kagawa-u.ac.jp/>)

本校では、小学部の5・6年生が2年に1回、中学部は3年生、高等部は2年生が毎年修学旅行に行っています。修学旅行の1年前には、生活単元学習の中で、先輩が訪れた観光地やインターネット、旅行ガイドなどの情報を参考に、自分が行きたい所やしたい活動を考えます。そして、友達の見聞き、友達と相談しながら行き先の希望をまとめます。修学旅行が近付くと、どこで、誰と、どんな活動を、どのようにするのか、具体的に学習していきます。そんな学習を積み重ねることで、修学旅行に行く期待を高めるとともに、見通しをもって旅行期間を楽しく過ごすことができます。今年は、中学部、高等部が修学旅行に行ってきました。その様子を紹介します。

中学部

中学部は、事前学習で行き先ごとに「わくわくシート」を作り、分かったことやその場所で楽しみにしていることを踏まえ、10月31日（水）～11月2日（金）の二泊三日、大阪に行ってきました。一日目の見学先は「ニフレル」です。カピバラやハナミノカサゴなど会いたかった生き物を探し、一緒に写真を撮りました。次に向かったのは「あべのハルカス」です。エレベーター中の電飾が変化していく様子や60階から大阪の景色を楽しみました。二日目はUSJに行きました。最初はクラス全員で行動し、昼食後、「ドキドキコース」と「わくわくコース」に分かれました。「ドキドキコース」は次々とアトラクションを体験し、まさしくドキドキのスリルを味わいました。「わくわくコース」は大きなクリスマスツリーの前で写真を撮ったり、ショーを楽しんだりしました。ちょっぴり足が疲れたけれど、楽しさいっぱい的一天になりました。最終日は、ドーナツ作りを体験し、揚げたてのふわふわドーナツを食べました。いつも5人で声を掛け合い、5人で行くからこそ楽しめる修学旅行となり、クラスの絆がまた深まりました。



高等部

9月12日（水）～14日（金）まで関東方面に修学旅行に行きました。一日目は浅草、東京スカイツリー、上野動物園、アクアパーク品川に行きました。40分待ちでやっと会えたシャンシャンは爆睡中でした。（泣）アクアパークのイルカショーは、光と音楽で演出された幻想的な雰囲気の中、一条乱れぬイルカたちの演技にみんなが感動しました。一日目はICカードを使って公共交通機関を利用しました。事前学習で練習したかきがあり、カードで「ピッ！」もみんなスマート！移動の時間も短縮でき、ちょっとした買い物もカードを使って自分で行えました。二日目は終日東京ディズニーシー。10のアトラクションを体験し、思う存分楽しみました。ランチタイムには、ミッキーやミニーマウスたちと一緒に写真を撮ったり、サインをもらったりして、思い出に残る時間が過ごせました。三日目は日本科学未来館でアシモに会い、月島でもんじゃ焼を食べ、カップヌードルミュージアムに行きました。三日間天候に恵まれ、見て、聞いて、触って、嗅いで、食べて、五感をフルに使って旅を満喫しました。みんなで助け合い、みんなで笑い合い、みんなで作った思い出は一生の宝物です！



特別支援教室「すばる」の研修教育事業



今回は、特別支援教室「すばる」の4つの事業（①教育相談事業、②個別指導事業、③研修教育事業、④研究開発事業）の中から、「③研修教育事業の実際」について紹介します。

【現職教員（内地留学生）の長期研修】

本教室では、平成17年度より香川県教育委員会派遣の内地留学生（現職の小・中・養護学校の教員）を毎年度2名受け入れ、1年間の研修を行っています。研修では、主に個別指導を通して、子どもの特性や困難の背景にある要因、具体的なアセスメントや指導・支援の方法等について理解を深め、個の特性やニーズに応じた指導・支援のあり方を実践的に学びます。また、文献を読んだり大学教員によるゼミ形式の研修を受けたりしながら、特別支援教育に関する専門的な知識を習得しています。

個別指導を通じた実践的な研修では、特別支援教室スタッフのスーパーバイズのもと、内地留学生がアセスメントの実施、個別の指導計画や個に応じた教材の作成、指導の実施と評価、保護者との面談など個別指導の一連の手続きを実習します。特に深い学びの場となるのは、“事例検討会”です。本教室では、すべてのお子さんの毎回の指導について、事前検討と事後評価を行う事例検討会を実施しています。事例検討会では、指導の進捗状況や子どもの様子などを共有し、指導の改善点を検討したり、指導法や教材のアイデアを出し合ったりします。丁寧な検討と活発な討議によって根拠に基づく効果的な指導方法を探求し、個々の子どもに合った学び方や方略を見つけていきます。内地留学生は、この事例検討会を通して多くの事例や多様な指導法に触れることができるため、知識を深めたり視野を広げたりすることにもつながっています。また、内地留学生だけではなく、スタッフにとっても、事例検討会は貴重な研鑽の場となっています。

毎週楽しみに通って来てくれる子どもたちはもちろん、これから出会う子どもたちの意欲や自信を高めていける指導・支援を行うことができるように、内地留学の先生方は日々の研修に励んでいます。



【香川県下の教員を対象とした研修】

本教室では、現職教員等を対象とした理解・啓発のための研修や、各学校の特別支援教育コーディネーターを対象とした専門的な研修などを実施しています。

11月10日（土）には、香川県教育委員会主催の「特別支援教育・通級指導フォーラム」がすばるで開催され、香川県下の通級指導教室担当の先生や特別支援教育に関わる先生方が参加されました。

フォーラムでは、まず本教室のスタッフより、本教室の概要や通級指導教室における指導・支援のあり方について講話を行いました。その後、施設見学をし、最後に具体的な教材・教具を紹介しながら参加者で情報交換を行いました。指導・支援のあり方や教材・教具、アセスメントの方法など、日常の悩みや工夫等について活発な意見交換がなされました。一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援を行うことができるように、日々、指導・支援や研修に励んでおられる先生方との有意義な会となりました。



幼稚園より

ウェンディの会

10月26日（金）に恒例のウェンディの会が開催されました。今年には理学療法士の方を講師にお招きし「ストレッチポール講習会」を実施。幼稚園リズム室で実際にストレッチポールを使って、姿勢の歪みを整えるエクササイズを行いました。参加者の皆さんは、「子どもの姿勢の重要性」についても熱心に耳を傾けておられ、ご自身だけでなく、お子さんやご家族の健康に強い関心を示されていました。



ランチ会

11月8日と9日、赤組・青組の保育参加後、それぞれ保護者の交流と親睦を深める恒例のイベントとして、ランチ会が開催されました。赤組は会場を貸し切り、9月に行われた秋季大運動会の記録映像をプロジェクターで投影しました。子どもたちの演技を鑑賞しながらの和やかな昼食会となりました。



小学校より

夏休み企画！小学校・特別支援学校合同木工教室開催

附属特別支援学校親和会の清水様にご協力頂き、木工教室を7月28日（土）に開催しました。児童31名、保護者20名の参加で、それぞれ本棚、ティッシュボックスなどをきりや金槌などを使って作りました。暑い中でしたが、本格的な木工にそれぞれが集中して、作り上げました。保護者の方でも、初体験のから作る木工は大変でしたが、最後は達成感の笑顔でした。色塗りまではできなかったのですが、それぞれオリジナルの色塗りをして、夏休みの宿題の工作の作品になったのではないのでしょうか。



秋のOYGカヌー体験教室

10月のわくわく4連休の中、10月27日、前日が雨でどうなるかと思っていましたが、無事に風が強いながらも、秋晴れの中、総勢22名の参加で開催できました。国際的なカヌーの練習場にも使われる府中湖で、12艇ほどのカヌーで、いつもとは違うエリアでカヌーを体験しました。カヌー体験者の方は、カヌー未経験の方のサポートをして頂きながら、和気あいあいとした雰囲気の中で、充実したカヌー体験となりました。親と子供が一体となって一つの艇を協力して漕ぐ、素晴らしい体験でした。



中学校より

松韻会カフェ

12月8日（土）オープンスクールの日、多目的教室において「松韻会カフェ」を開きました。約90名の保護者の皆様にご参加いただきました。

カフェでは、学校での様子がビデオで流され、家庭とは少し違う、生き生きと楽しく学校生活を送るお子様たちの姿を見て、保護者の皆様も安心されている様子でした。和やかな雰囲気の中、お子様たちの近況を語り合い、とても有意義な時間となりました。



市PTAソフトボール大会

12月9日（日）市PTAソフトボール大会が開催されました。ソフトボール大会には、松韻会スポーツ活動の一環として毎年参加しており、昨年は見事優勝。今年は二連覇を目指して11月から楽しく練習を行ってきました。

結果は、優勝には届きませんでした。攻守、好打に沸き、ときには大爆笑の場面もあって、参加者全員が充実した一日を過ごすことができました。



特別支援学校より

2018年度 香川県特別支援学校PTA連絡協議会 全体会

10月14日、香川県下の特別支援学校9校で組織されるPTA連絡協議会全体会が開催されました。約80名の保護者と先生方が香川県立盲学校に集まり「障害のある人への災害支援の現状と課題」というテーマで行政・防災・危機管理・教育・福祉・医療それぞれの専門の先生方によるパネルディスカッションが行われました。

東北の震災以降毎年のように発生する自然災害によって防災への関心は高くなっています。しかし南海トラフ地震はいつおこっても不思議ではないと言われながら具体的な備えをしている方がどれほどいらっしゃるのでしょうか？皆さん「自分は大丈夫」という根拠のない楽観的な自信をおもちのようです。

みなさん災害が発生しても逃げ延びることができれば、そして避難所に入りさえすれば行政のサポートによってなんとかなるというイメージをおもちです。しかし障害のある人は、たとえば常に医療的なサポートが必要な児童生徒はそれが受けられない状態になれば生命の維持さえ困難になるかもしれません。四肢に障害のある子どもたちは通常の避難所では日常生活ができません。また自閉症の子どもはいつもと違う環境を強いられる避難所での生活には多くの困難を伴います。どのような人でも災害に対する備えは必要ですが、障害のある子どもの親にとってはそれ以上の準備（非常時に対する二重三重の備えなど）や心構えが必要なのです。今回の講演では災害発生メカニズムから、災害発生時の行政の対応、福祉避難所の開設、生き延びる方法、日頃の備え等々各専門の先生方からいろいろなお話をお聞きすることができました。

とにかく家族用の最低3日間の水・食料や生活用品をいつでも持ち出せるよう準備し、家族での連絡手段や集合場所などのルールを決めておくこと（自助）。そして可能な限り周りの人たちと互いに助け合うこと（共助）が大切であり、行政による支援（公助）はあくまでも補助的なものであるという認識を持っておくことが大切であると感じた次第です。

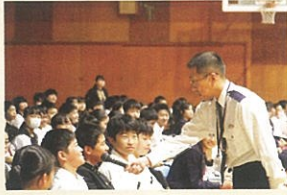
みなさん準備は早めに！明日では遅すぎる？かもしれません。

親和会



13歳の自律教室を行いました

10月26日(金)に県教育委員会と県警察本部から先生をお招きして、1年生を対象にした13歳の自律教室を実施しました。講師の先生の講話や友人と考えを交流しながら、14歳になることの意味について考える時間となりました。毎年、1年生を対象に実施していますが、大人になって身につける責任について学ぶことで、大人への階段を少しずつ上る姿が見られました。



生徒会会スタート

10月5日(金)に生徒会役員選挙を行い、新しく5名の役員が決まりました。10月11日(木)の後期始業式で任命を受けて、生徒会活動が始まりました。北岡陸登会長から「この学校ならではのと言われることをつくっていききたい」と呼びかけがありました。新たな気持ちで、70年の伝統をしっかり受け継いで、学校をよりよくするリーダーとしての活躍を期待しています。



中学校

安心・安全な学校づくり

本校では、子どもたちがいつでも安心して学校生活が過ごせるように防犯カメラを靴箱前と守衛室に設置しました。校舎内に不審者が入っていないかどうか確認ができたり、不審な人はいないか事前を知ることができたりします。本校では、学校に来校された方には、できるだけ職員が声かけをするようにして、安全管理を行っております。



守衛室のカメラからは学校から貞光線方向、幼稚園方向、坂出高校前の道の様子も確認できるようにしています。防犯のためのカメラですが、本当は何も起こらないことが一番です。



防犯カメラだけに頼らず、保護者の方が毎日行っておられる登下校の立哨や職員の登下校指導のオレンジベスト着用も大きな防犯対策になっています。オレンジベストを着用した方が、たくさん本校周辺を歩いてくださることで、安心・安全な学校になると思います。どうぞ、本校に来校される際は、オレンジベストを着用していただけたらありがたいです。



ご協力よろしくお願いたします。

小学校

特別支援学校

芋ほり体験をしました

地域の作業所さんからご招待していただき、小学部の子どもたちは芋ほり体験に出かけました。学校から近いところということもあって、体力のある高学年は歩いて出かけました。見たことのない大きな畑に子どもたちは大喜び。芋のつるを引っ張って、引っ張って、力いっぱい引っ張って、やっと抜けたお芋は大きくて、ずっしり。たくさん収穫することができ、喜んでいました。ほった後はアツアツの焼き芋をいただきました。甘くておいしいお芋に、どの子どもも満足で、たくさん食べました。楽しい体験ができた一日でした。



幼稚園

保護者座談会 ～赤・黄組保育参加日～

11月8日、「子育てエンジョイ作戦！」と題して、年中・年少組の保護者が座談会を行いました。「子育てでちょっと困っていることピンゴ」では、「うちの子は少食なので、栄養が足りているか心配」「偏食が激しすぎる」「下に妹がいてがまんばかりさせている」「夜尿が止まってほしい」「忙しい時ほど、かまって欲しがる」等、様々な悩みが出ました。その度に、「うちも同じ!」「分かるその気持ち」と頷きが頻って、悩んでいるのは私一人ではないことやこれまで頑張ってきた自分に気付いて、安心されたようでした。短い時間でしたが、とても楽しいひとときでした。



親子で一緒にいのちについて考えよう ～青組保育参加日～



11月9日、年長組と保護者を対象に助産師さんをお迎えし、紙芝居や出産劇を通して「受精から出産まで」について子どもたちに分かりやすくお話をさせていただきました。

子どもたちは、いのちの誕生のお話や、お腹の中の赤ちゃんの心音や産音を、目を輝かせて一生懸命に聞いていました。

自分がこの世に生まれてきたこと、それがいかに奇跡で素晴らしいことなのか、そして誰もが望まれて生まれてきた大切ないのちであることを子どもたちなりに感じたと思います。

また、保護者の方からは「今まで家庭ではあまり触れていないお話でした。帰宅後、赤ちゃんの時の写真や、お腹のエコー写真を見て不思議そうにしていた」「いつか我が子が性について“不思議だな”と思った時に、きちんと向き合いたいと思った」「命の大切さを教えられるとても良い機会になった」などの感想が寄せられました。

編集後記

10月の総合学習CANの中間発表会では、今年度から、附属小学校6年生のみなさんや坂出高校教育創造コースの2年生のみなさんが参加して、今までにはない小・中・高の子どもたちが交流する姿が見られました。小学生から、中学生の発表に対して積極的に質問をする姿、それに一生懸命に答える中学生の姿や、その様子を、高校生が評価する姿は、学びの連続性を感じさせるものでした。まだまだ、課題はありますが、これからますます交流が深まり、お互いに学び合うことで、生涯にわたって学び続ける大人を育むことができる可能性の広がりを感じます。

今後とも、皆様方のご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いたします。

発行年月日：2018年12月18日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

桑原 育子 (附属幼稚園)

樽本 導和 山路 晃代 (附属坂出小学校)

石川 恭広 大西 光宏 (附属坂出中学校)

大西 祥弘 妹尾 恭子 (附属特別支援学校)